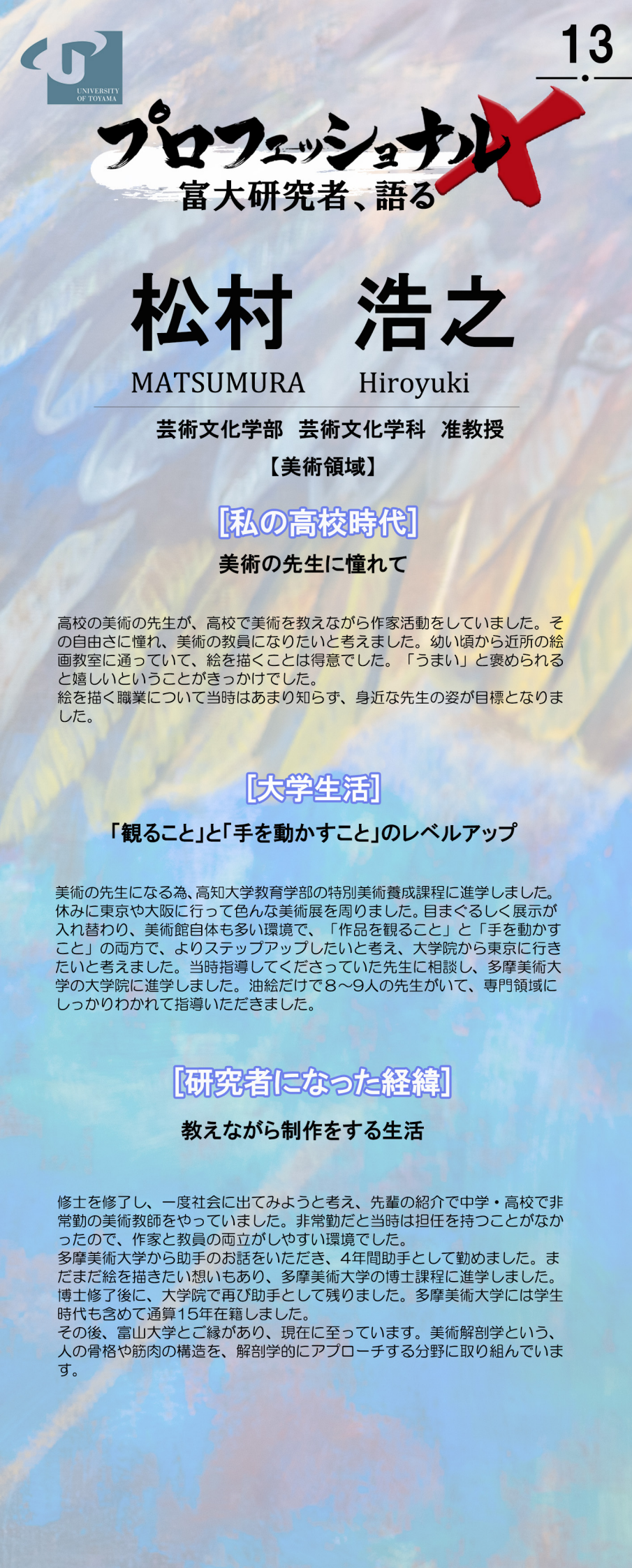




プロフェッショナルX

富大研究者、語る

松村 浩之

MATSUMURA Hiroyuki

芸術文化学部 芸術文化学科 准教授

【美術領域】

【私の高校時代】

美術の先生に憧れて

高校の美術の先生が、高校で美術を教えながら作家活動をしていました。その自由さに憧れ、美術の教員になりたいと考えました。幼い頃から近所の絵画教室に通っていて、絵を描くことは得意でした。「うまい」と褒められると嬉しいということがきっかけでした。絵を描く職業について当時はあまり知らず、身近な先生の姿が目標となりました。

【大学生活】

「観ること」と「手を動かすこと」のレベルアップ

美術の先生になる為、高知大学教育学部の特別美術養成課程に進学しました。休みに東京や大阪に行って色々な美術展を周りました。目まぐるしく展示が入れ替わり、美術館自体も多い環境で、「作品を観ること」と「手を動かすこと」の両方で、よりステップアップしたいと考え、大学院から東京に行きたいと考えました。当時指導してくださっていた先生に相談し、多摩美術大学の大学院に進学しました。油絵だけで8～9人の先生がいて、専門領域にしっかりわかれて指導いただきました。

【研究者になった経緯】

教えながら制作をする生活

修士を修了し、一度社会に出てみようと考え、先輩の紹介で中学・高校で非常勤の美術教師をやっていました。非常勤だと当時は担任を持つことがなかったので、作家と教員の両立がしやすい環境でした。多摩美術大学から助手のお話をいただき、4年間助手として勤めました。まだまだ絵を描きたい想いもあり、多摩美術大学の博士課程に進学しました。博士修了後に、大学院で再び助手として残りました。多摩美術大学には学生時代も含めて通算15年在籍しました。その後、富山大学とご縁があり、現在に至っています。美術解剖学という、人の骨格や筋肉の構造を、解剖学的にアプローチする分野に取り組んでいます。



高校生へのメッセージ

美的センスはなかなか身に付かないセンスです。富大の芸文では、杓子定規な見方ではなく、斜めからのモノの見方や考え方を身に付けることが出来る所が良いところです。展覧会の相談や、キャンパスの作り方、作品のつくり方などの相談に乗りますので、富大芸文でものづくりをしてみたいという人は、ぜひ頼ってきてほしいと思います。



絵画基礎Cの授業風景

絵画基礎では絵画の基礎から丁寧にやっています。学生がモデルになることもあります。



富山マラソン2025

富山マラソン2025の、JR新高岡駅構内に設置するパネルを研究室の学生と作成しました。学生の実践の場として、地域に根差した制作活動ができることも魅力です。



豪農の館「内山邸」での展示

富山県富山市にある豪農の館「内山邸」にて、古民家の中での展示に携わりました。絵画作品を壁に「掛ける」のではなく「置く」ことによって展示方法の幅を広げる経験をしました。



タイ・パタナシン芸術大学交流展

タイのパタナシン芸術大学と共同で、芸術文化学部キャンパス内の展示を行いました。芸文の学生の作品の講評をしてもらい、富山に限らず幅広く交流しています。

Profile

1978年山口県生まれ。山口県立華陵高等学校出身。
高知大学教育学部卒業。
多摩美術大学 大学院 美術研究科 絵画専攻（油画）修了。
東京都内の中学校・高校で美術の非常勤講師として勤務したのち、多摩美術大学で助手として経験を積む。
多摩美術大学 大学院 美術研究科 博士後期課程 美術専攻修了。
多摩美術大学大学院で助手として従事したのち、2018年4月より富山大学着任。
現在の研究テーマ：絵画（油画）、美術解剖学、絵画技法材料研究、人体表現、自画像
所属学会：独立美術協会、美術解剖学会
担当講義：絵画基礎A・B・C、絵画A・B・C・D、絵画技法材料演習、平面表現特別演習A・C、導入ⅡーA、美術表現A